



# 九州北部地方 3か月予報（4～6月） の解説

福岡管区気象台 気象防災部予報課  
（令和8年3月24日14時発表）

since 1875



# 九州北部地方3か月予報のポイントと留意点

## 予報のポイント

- 向こう3か月の気温は、**暖かい空気に覆われやすい**ため、**高い**。
- 向こう3か月の降水量は、低気圧や前線の影響を受けやすいため、**平年並が多い**。

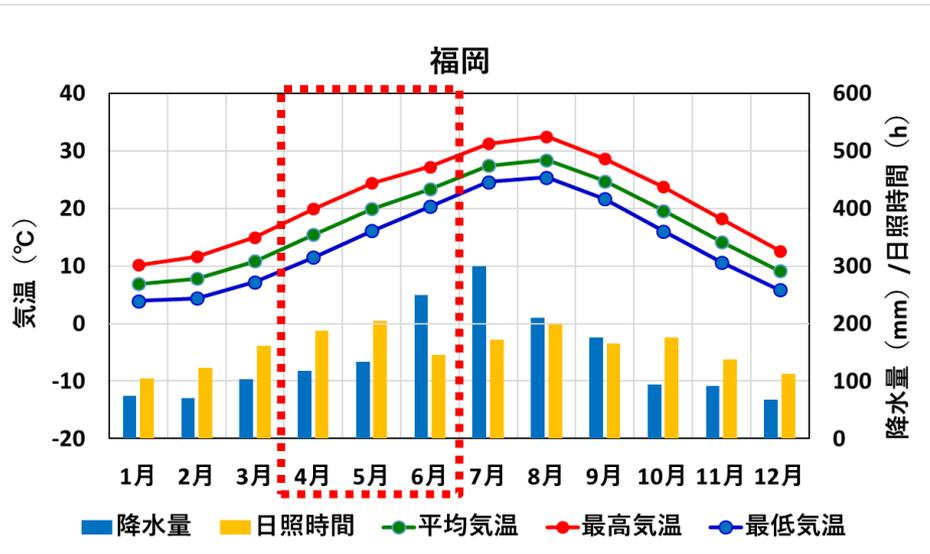
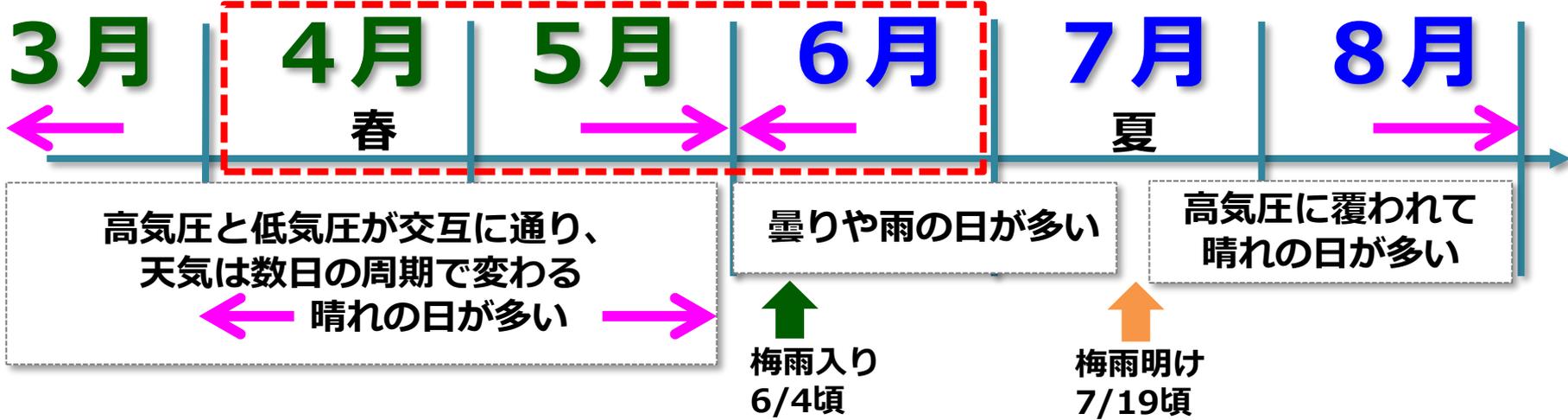
## 留意していただきたいこと

- 昨年10月中旬からの少雨の状態が解消されていない地域がある。向こう3か月の降水量は平年並が多い予報だが、当面、**これまでの少雨の影響が残る可能性がある**。引き続き、**水資源の管理**に注意。
- 3か月通じて**高温**の予想、**暑さへの備えを早めに**。
- 一方、近年は梅雨時期など大雨の発生頻度が増加している。出水期を迎える前に**大雨に備える心構えを**。

新しい予測資料を踏まえ暖候期の天候について検討しましたが、2月24日発表の暖候期予報の内容に変更はありません。

# 春～夏の九州北部地方の平年の天候経過

予報期間



気象要素の月ごとの季節変化

春から夏への季節進行とともに  
**気温上昇、降水量増加**

年降水量の約1/3が  
6～7月（梅雨期間）に降る

年降水量平年値（福岡）：1686.9mm

梅雨期間（6～7月）

降水量平年値（福岡）：548.7mm

# 九州北部地方の3か月予報（4～6月）

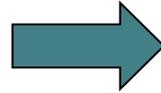
|             | 気温<br>低 並 高 (%)           | 降水量<br>少 並 多 (%)              | 天候   |
|-------------|---------------------------|-------------------------------|--|
| <b>4～6月</b> | <b>高い</b><br>10 : 20 : 70 | <b>平年並か多い</b><br>20 : 40 : 40 |  |
| <b>4月</b>   | <b>高い</b><br>10 : 20 : 70 | <b>平年並か多い</b><br>20 : 40 : 40 | 天気は数日の周期で変わるが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に <b>比べ</b> 晴れの日が <b>少ない</b> 。 |
| <b>5月</b>   | <b>高い</b><br>10 : 30 : 60 | ほぼ平年並<br>30 : 30 : 40         | 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。                                      |
| <b>6月</b>   | <b>高い</b><br>10 : 30 : 60 | ほぼ平年並<br>30 : 30 : 40         | 平年と同様に、曇りや雨の日が多い。  |

# 前回（2月）発表からの変更点

前回

今回

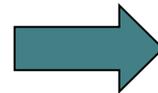
|       | 低  | 並  | 高  | % |
|-------|----|----|----|---|
| 4月の気温 | 10 | 30 | 60 |   |
| 5月の気温 | 20 | 30 | 50 |   |



|  | 低  | 並  | 高  | % |
|--|----|----|----|---|
|  | 10 | 20 | 70 |   |
|  | 10 | 30 | 60 |   |

偏西風が北寄りを流れやすい傾向が強まったため

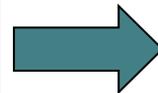
|        | 少  | 並  | 多  | %     |
|--------|----|----|----|-------|
| 4月の降水量 | 30 | 40 | 30 | ほぼ平年並 |
| 5月の降水量 | 30 | 40 | 30 | ほぼ平年並 |



|  | 少  | 並  | 多  | %      |
|--|----|----|----|--------|
|  | 20 | 40 | 40 | 平年並が多い |
|  | 30 | 30 | 40 | ほぼ平年並  |

4月の天候

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

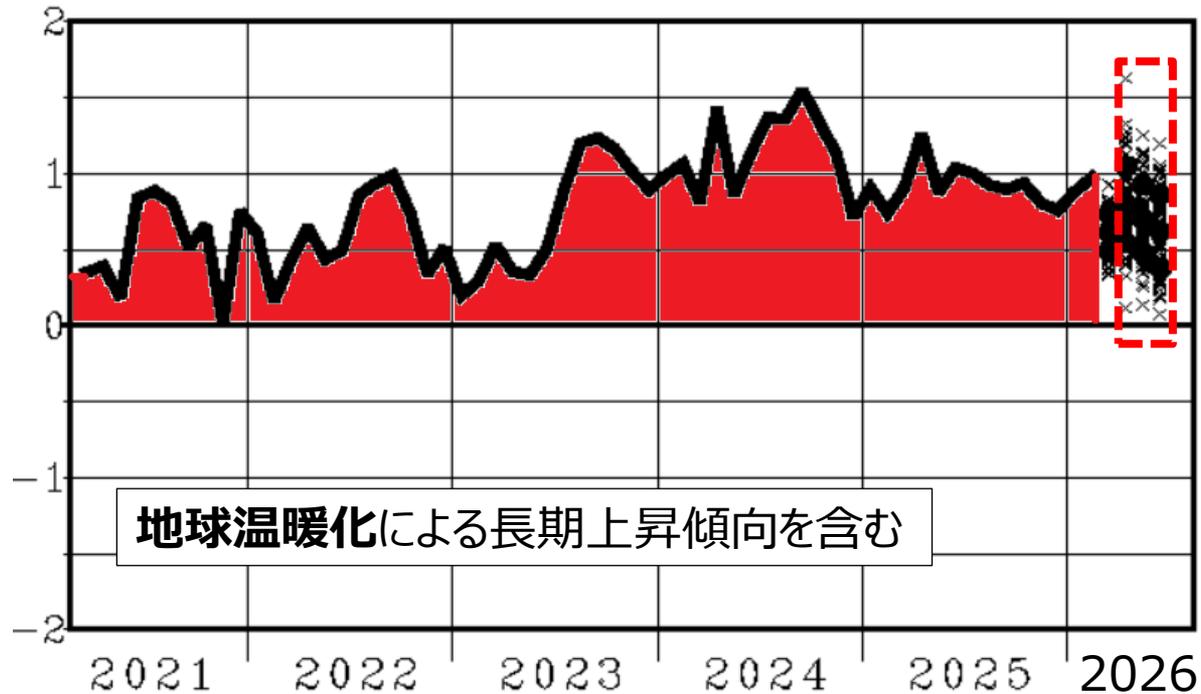


天気は数日の周期で変わるが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が**少ない**。

4月を中心に南からの湿った空気の影響を受けやすい傾向が強まったため

# 根拠① 大気全体の温度の実況および予測

北半球中緯度の大気の温度は**高い状態が続く**

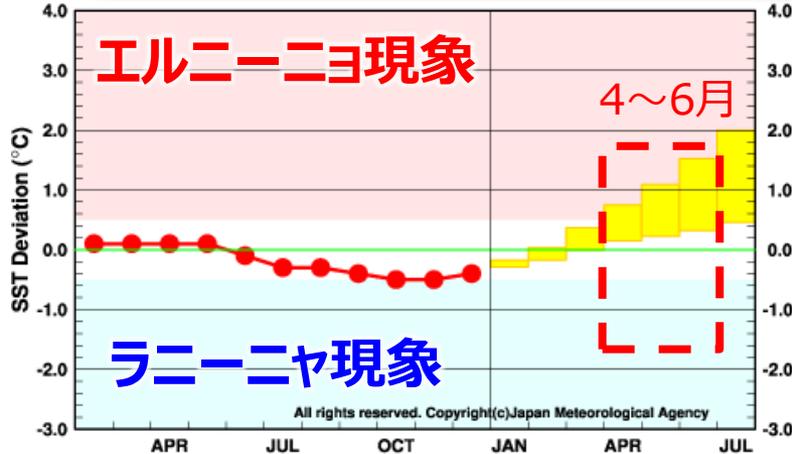


北半球中緯度の大気の温度の解析値と予測  
対流圏（高さ約1,500～10,000m）の温度の年平均差

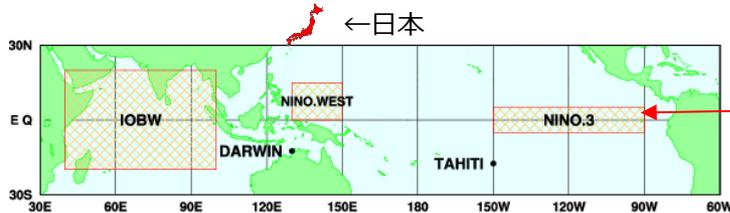
(平年：1991～2020年の30年平均)

# 根拠② 熱帯域の海面水温の予測

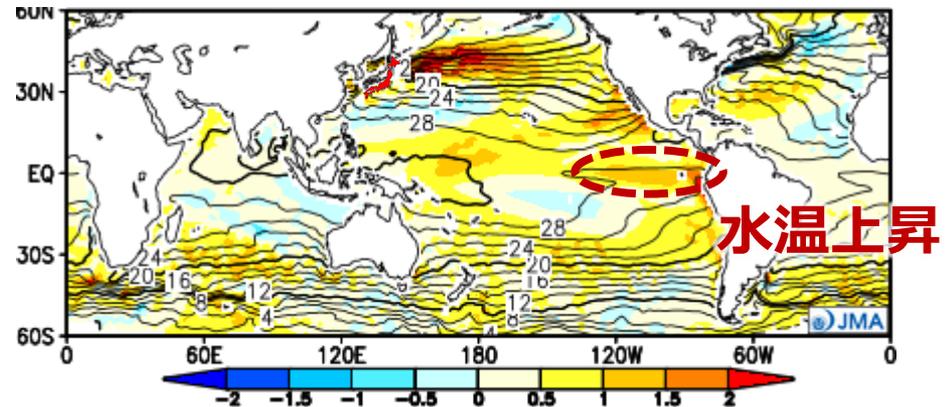
- ✓ エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない**平常の状態**と見られ、**ラニーニャ現象に近い状態は解消**に向かっている。
- ✓ 今後、春の間に**エルニーニョ現象**が発生する可能性と平常の状態が続く可能性が同程度（50%）となり、夏には平常の状態が続く可能性もある（40%）が、**エルニーニョ現象**が発生する可能性の方がより高くなる（60%）。



エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値の差



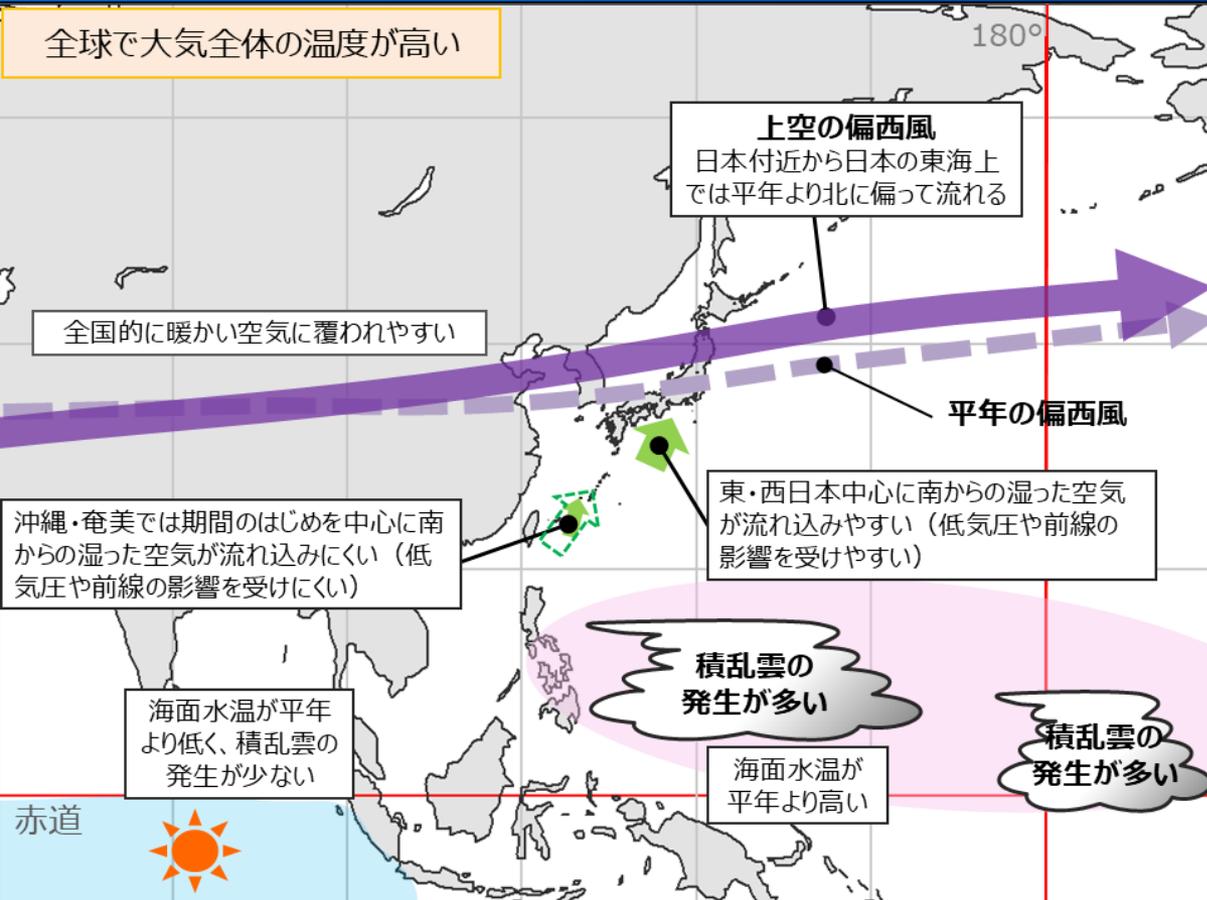
## 4~6月の海面水温[°C]の予測



線：水温  
色：水温平年差

エルニーニョ監視速報 URL :  
[https://www.data.jma.go.jp/cpd/elnino/kanshi\\_joho/kanshi\\_joho1.html](https://www.data.jma.go.jp/cpd/elnino/kanshi_joho/kanshi_joho1.html)

# 4～6月の予想される海洋と大気の特徴



## 気温のポイント

### 気温は高い

- ✓ 大気全体の温度が高い
- ✓ 上空の偏西風は日本付近から日本の東海上を中心に平年より北を流れる。九州北部地方では暖かい空気に覆われやすい

## 降水量のポイント

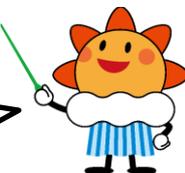
### 降水量は平年並か多い

- ✓ 南からの湿った空気が流れ込みやすく、低気圧や前線の影響を受けやすい。

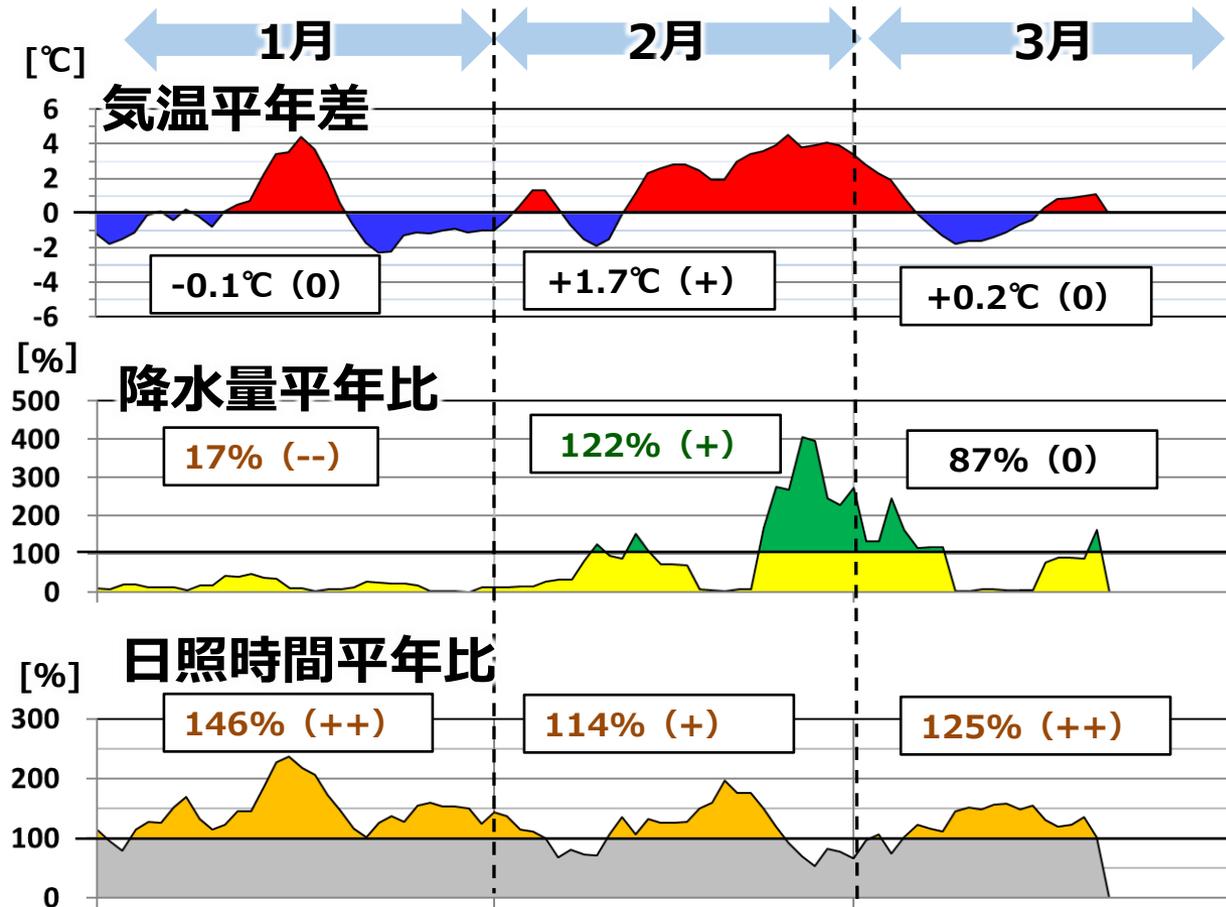
## 【熱帯域の海面水温と対流活動】

- 太平洋熱帯域の海面水温は東部から中部で次第に高くなるほか、西部でも期間の前半を中心に高い状態が続く。
- 積乱雲の発生はフィリピンの東から太平洋中部で多い。

暑さに対する備えと大雨に対する備えをお願いします。



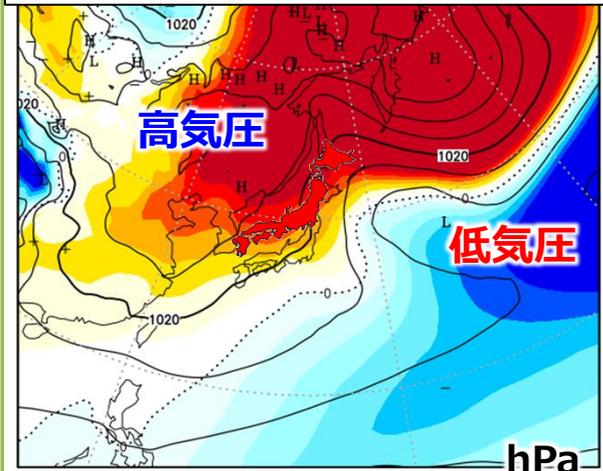
# 九州北部地方の天候経過 (1~3月)



## 【3月の天候】

天気は数日の周期で変わり、中旬を中心に高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなった。日照時間は平年を大きく上回った。

## 海面気圧と平年差 3/1~3/20平均



黄海付近から東シベリアおよびベーリング海にかけて広く顕著な正偏差となり、平年では存在するアリューシャン低気圧は見られなかった。日本付近には、大陸からの高気圧が張り出して、本州以南では高気圧に覆われやすく、低気圧や前線の影響を受けにくかった。

### 階級区分値

- (++) : かなり高い/かなり多い
- (+) : 高い/多い
- (0) : 平年並
- (-) : 低い/少ない
- (--) : かなり低い/かなり少ない

数値は月平年差 (比) ・ 階級区分値

3月の値は20日までの暫定値

グラフは5日移動平均値でプロット

# 九州北部地方3か月予報のポイントと留意点

## 予報のポイント

- 向こう3か月の気温は、**暖かい空気に覆われやすいため、高い。**
- 向こう3か月の降水量は、**低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年並が多い。**

## 留意していただきたいこと

- 昨年10月中旬からの少雨の状態が解消されていない地域がある。向こう3か月の降水量は平年並が多い予報だが、当面、**これまでの少雨の影響が残る可能性がある。**引き続き、**水資源の管理**に注意。
- 3か月通じて**高温**の予想、**暑さへの備えを早めに。**
- 一方、近年は梅雨時期など大雨の発生頻度が増加している。出水期を迎える前に**大雨に備える心構えを。**

2月24日発表の暖候期予報の内容に変更はありません。



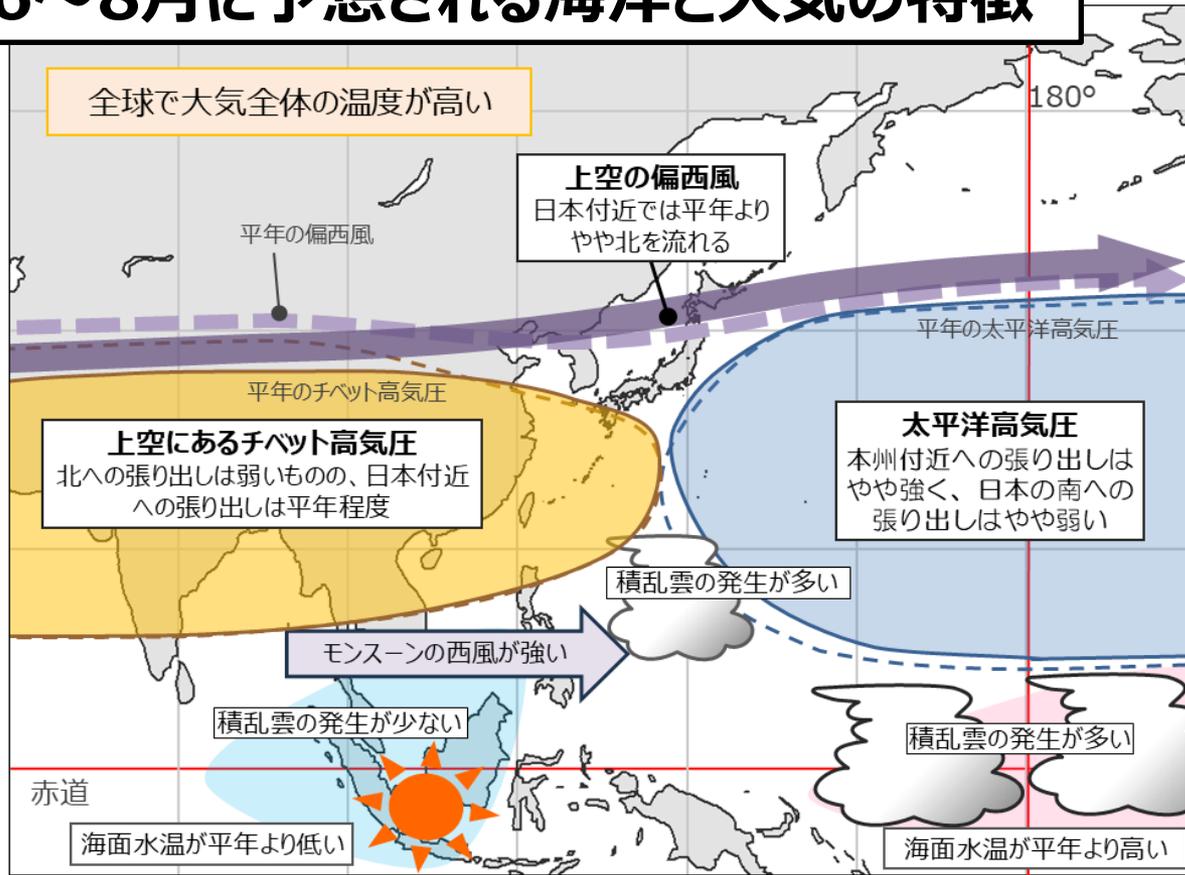
次回の3か月予報の発表は、**4月21日（火）14時**です。



# 【補足】2月24日発表の暖候期予報（夏の天候の見通し）に変更なし

夢み続けて150年  
防く災害・守る未来

## 6～8月に予想される海洋と大気の特徴



### 気温のポイント

#### 高温予想

- ✓ 大気全体の温度が**高い**
- ✓ 上空の偏西風が平年よりもやや北を流れ、**暖かい空気に覆われやすい**
- ✓ 太平洋高気圧の本州付近への張り出しが**やや強い**

### 降水量のポイント

- 夏・梅雨期間ともほぼ**平年並**  
(ただし、**多い確率が40%**)
- ✓ **南からの湿った空気が流れ込みやすい時期**がある
  - ✓ **梅雨期間は、梅雨前線の活動が活発となる時期**がある

### 【熱帯域の海面水温と対流活動】

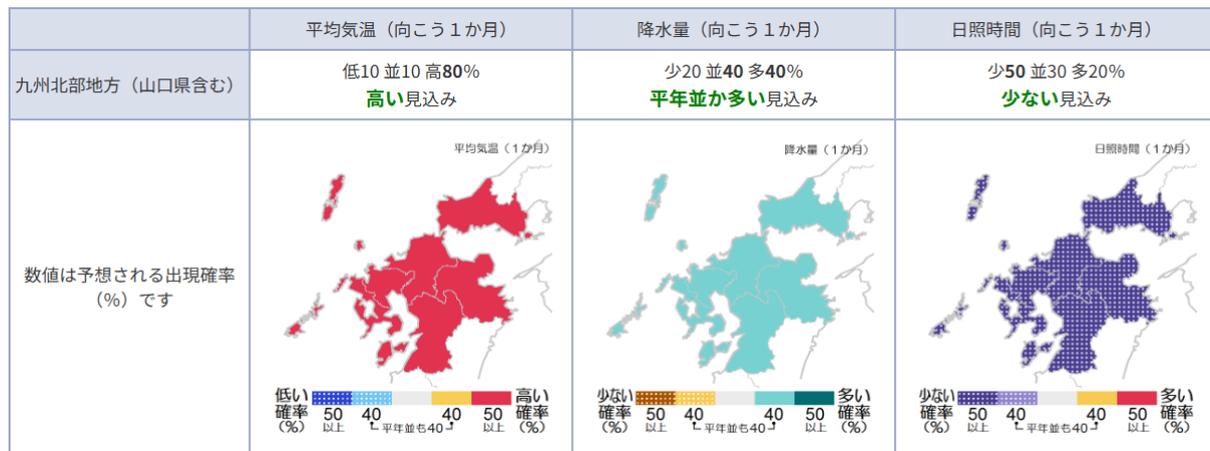
- 太平洋赤道域の東部から中部で高く、インド洋熱帯域の南東部で低い見込み。
- 積乱雲の発生は太平洋赤道域の日付変更線付近からフィリピンの東方海上で多い一方、インドネシア付近で少ない。

# 【補足】1か月予報（3/19発表）

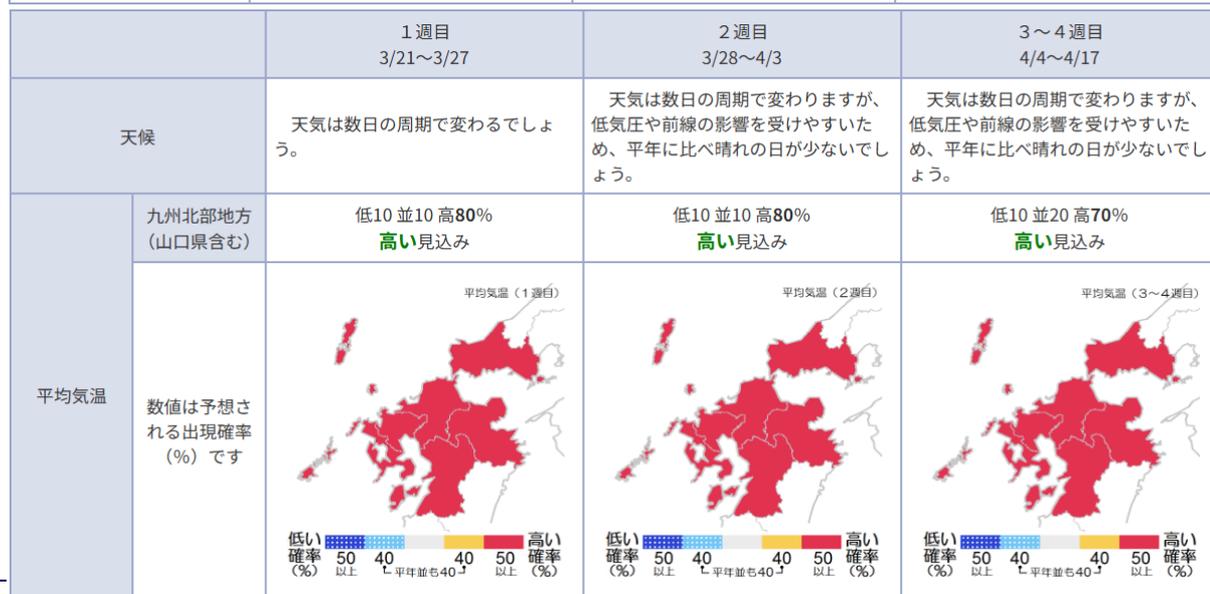
昨年10月中旬以降、低気圧や前線の影響を受けにくく、降水量の少ない状態が続いています。向こう1か月の**降水量は平年並か多い**見込みですが、これまでの少雨の影響が残る可能性があります。暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の**気温は高い**でしょう。

低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の**降水量は平年並か多く、日照時間は少ない**でしょう。

向こう1か月の  
気温・降水量・日照時間



週別の天候と気温



# 【補足】福岡県の2週間気温予報 (3/24 11時発表)

## 福岡

日付

福岡  
(最高気温)  
福岡  
(最低気温)

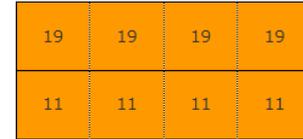
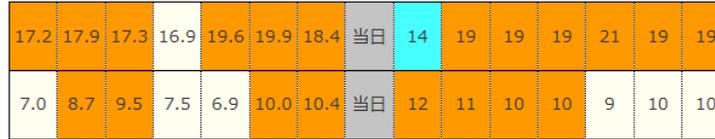
過去の实况

1週目の予報 (日別)

2週目の予報 (5日間平均)

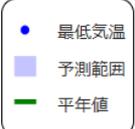
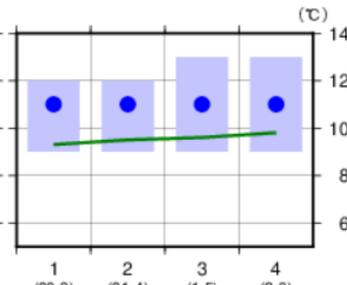
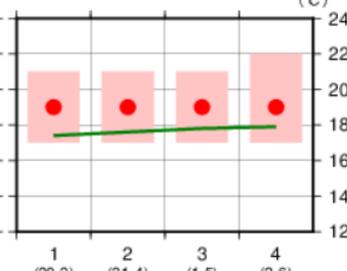
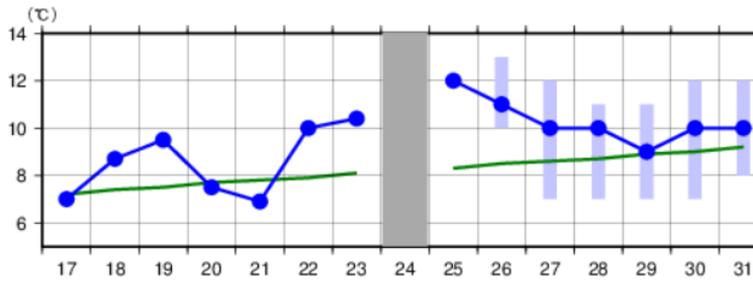
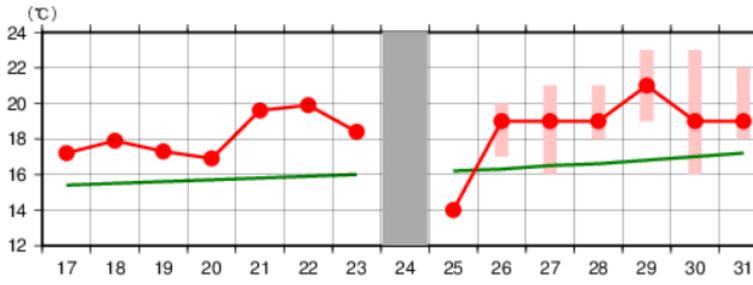
17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31  
火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火

1 2 3 4  
水 木 金 土  
(30~ (31~ (1~ (2~  
3日) 4日) 5日) 6日)

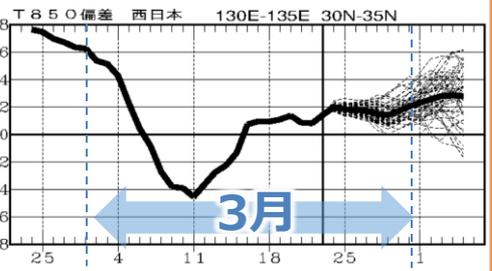


福岡  
(最高気温)

福岡  
(最低気温)



### 西日本上空の気温平年差の实况と予測の時系列



数値予報による今後2週間先までの上空約1500mの5日平均気温予測

## 九州北部地方

日付

九州北部地方 (山口県を含む)  
(平均気温)

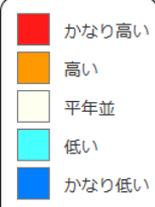
過去の实况

1週目の予報 (日別)

2週目の予報 (5日間平均)

17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31  
火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火

1 2 3 4  
水 木 金 土  
(30~ (31~ (1~ (2~  
3日) 4日) 5日) 6日)



2週間気温予報 <https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/?fuk=82>

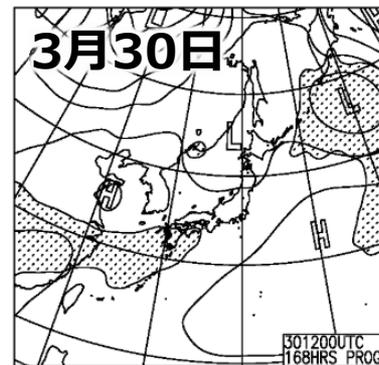
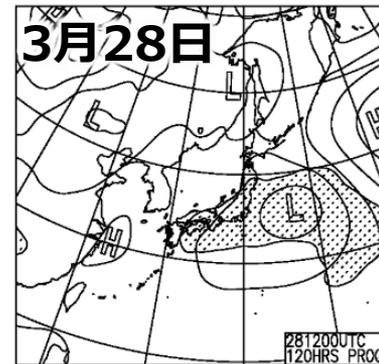
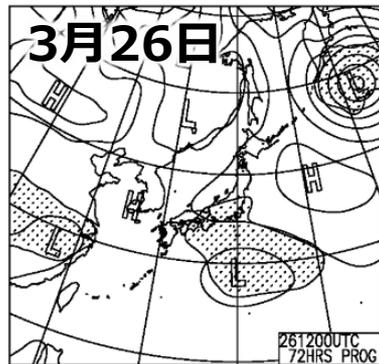
2週間気温予報資料 (各種時系列) [https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/longfcst/fax/fcvx24\\_12.png](https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/longfcst/fax/fcvx24_12.png)

# 【補足】福岡県の週間天気予報と予想天気図 (3/24 11時発表)

福岡県の天気予報 (7日先まで)

2026年03月24日11時 福岡管区气象台 発表

| 日付               | 今日<br>24日(火)   | 明日<br>25日(水)   | 明後日<br>26日(木)   | 27日(金)  | 28日(土)  | 29日(日)  | 30日(月)  | 31日(火)   |               |
|------------------|--|--|---|---|---|---|---|--|---------------|
| 福岡県              | 晴後曇<br> | 雨時々止む<br> | 晴時々曇<br> | 曇<br> | 曇時々晴<br> | 晴時々曇<br> | 曇一時雨<br> | 曇<br> |               |
| 降水確率(%)          | -/-/0/20   | 60/80/80/20  | 10  | 40  | 30  | 20  | 50  | 40   |               |
| 信頼度              | -  | -  | -   | C   | B   | A   | C   | B  |               |
| 福岡<br>気温<br>(°C) | 最高   | 20   | 14  | 19<br>(17~20)   | 19<br>(16~21)   | 19<br>(18~21)   | 21<br>(19~23)   | 19<br>(16~23)  | 19<br>(18~22) |
|                  | 最低   | -  | 12  | 11<br>(10~13)   | 10<br>(7~12)  | 10<br>(7~11)  | 9<br>(7~11)   | 10<br>(7~12)   | 10<br>(8~12)  |



L : 低気圧 H : 高気圧

陰影部 : 24時間で5mm以上の降水予想域

天気予報 [https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/#area\\_type=offices&area\\_code=400000](https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/#area_type=offices&area_code=400000)

予想天気図 (週間) <https://www.jma.go.jp/bosai/numericmap/data/nwpmmap/fe19.png>

# 【補足】少雨に関する気象情報（3/17発表）



3/17は、全般（東日本太平洋側、西日本）、東海地方、四国地方、九州北部地方（山口県を含む）で少雨に関する注意を呼びかけ

発表状況  
第1号：2025年12/15  
第2号：1/22  
第3号：2/17  
第4号：3/17

## 少雨に関する九州北部地方（山口県を含む）気象情報 第4号 令和8年3月17日14時18分 福岡管区気象台発表

（見出し）

山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県及び大分県では、昨年10月中旬から降水量の少ない状態が続いています。この状態は、向こう1か月程度続く可能性があります。農作物や水の管理等に十分に注意してください。

（本文）

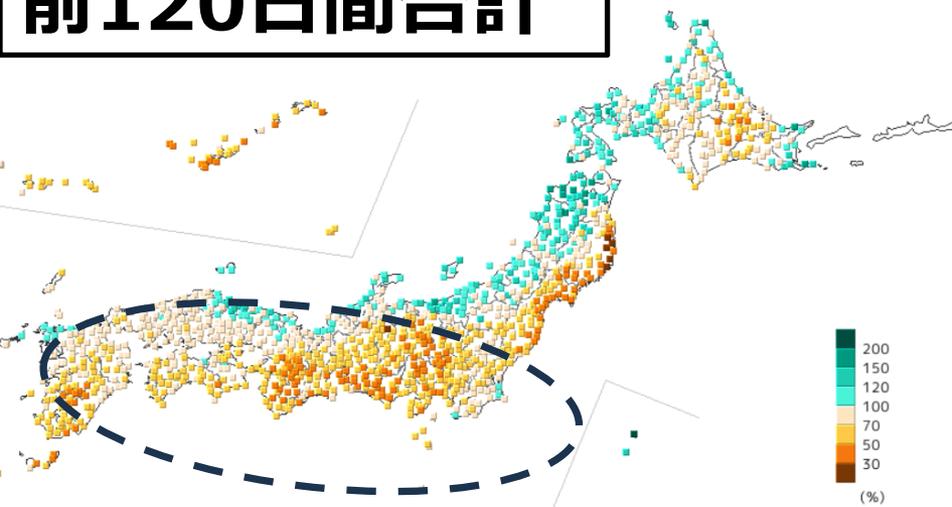
山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県及び大分県では、昨年10月中旬から2月中旬まで、低気圧や前線の影響を受けにくく高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、少雨の状態となりました。その後、降水があった日もありましたが、昨年10月16日から本年3月16日までの降水量が平年の半分以下となっている地点があるなど、少雨の状態が解消されていない所があります。

今後1か月程度は、天気は数日の周期で変わり雨の降る日もありますが、高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。このため、これまでの少雨による影響が続く所があるでしょう。農作物や水の管理等に十分に注意してください。

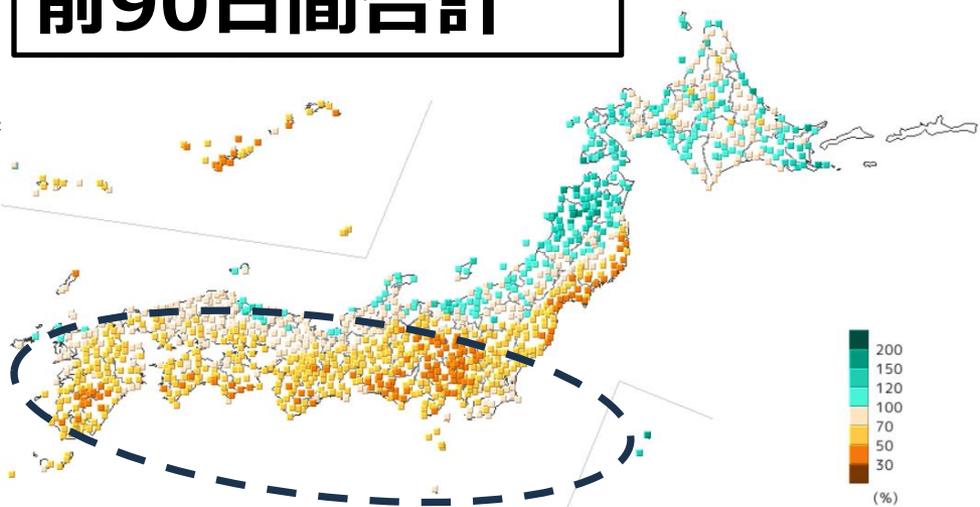
（略）

# 【補足】3月23日までの降水量の状況（平年比）

## 前120日間合計



## 前90日間合計



### 北・東日本太平洋側・西日本中心に少雨

九州北部地方（山口県を含む）では、昨年10月中旬から低気圧の影響を受けにくく、降水量の少ない状態が続いている。九州北部地方の2026年1月の降水量平年比は17%となり、1946年の統計開始以降1月として1位の少雨となった。

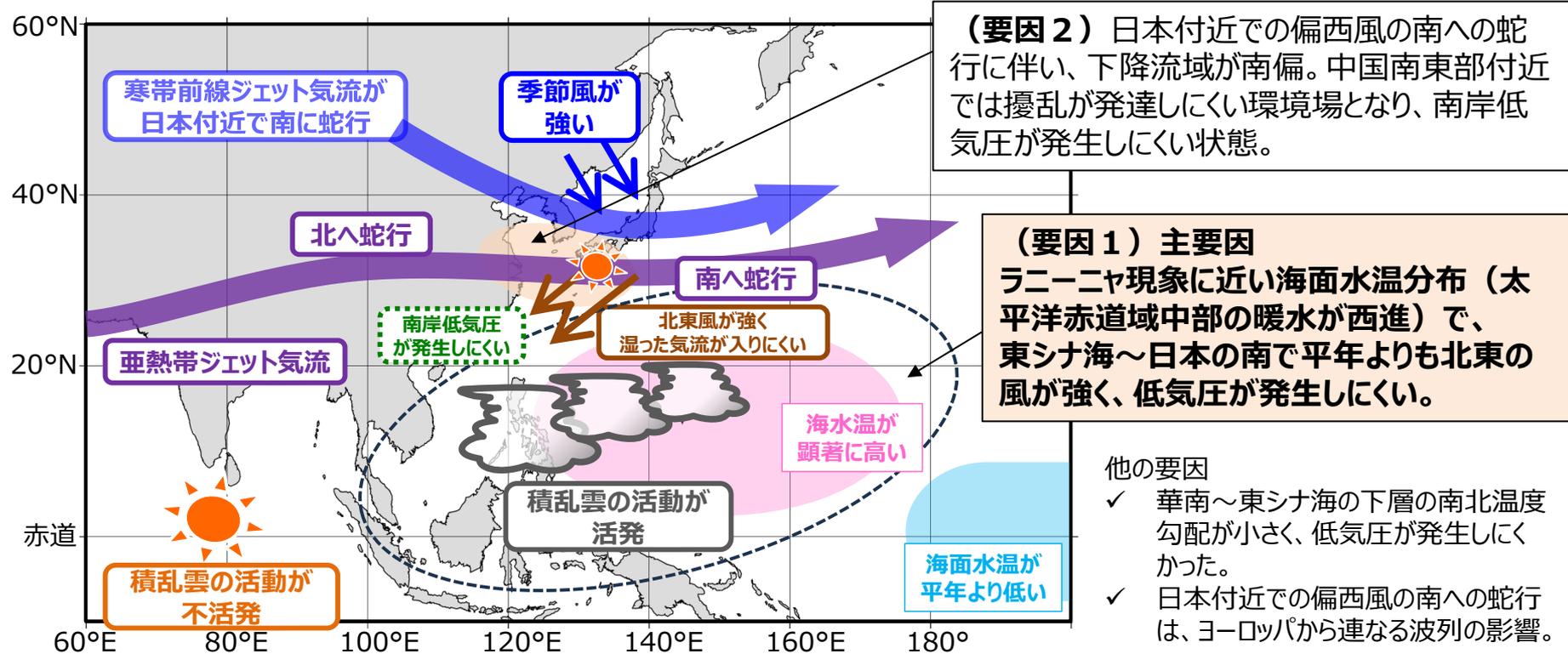
2月下旬～3月上旬の降水で、少雨の状況が改善した所もあるが、依然として、筑後川水系などでは貯水率が低い状況が続いている。

気象庁ホームページ > 各種データ・資料 > 最新の気象データ > 天候の状況 でご確認いただけます。

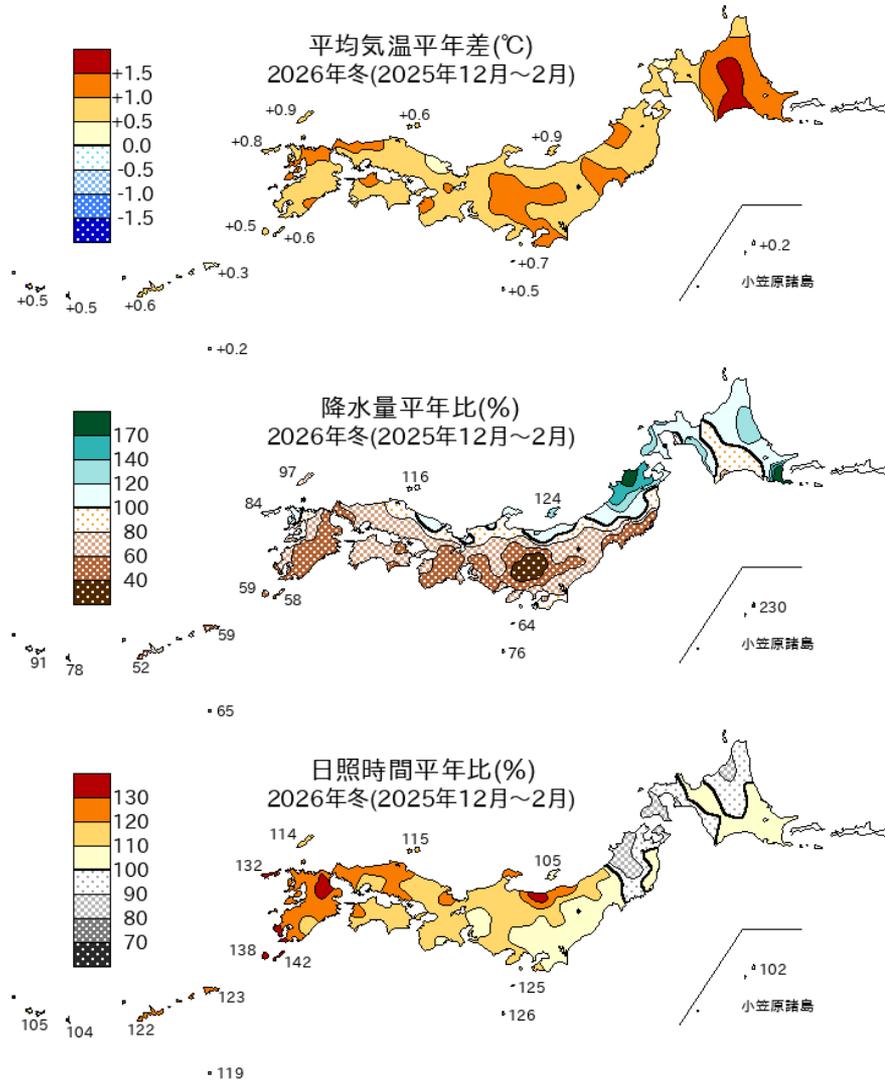
URL : <https://www.data.jma.go.jp/stats/data/mdrr/tenkou/indexTenkou.html>

# 【補足】少雨の要因（1月） （2月も同様）

- ✓ 少雨の要因は、フィリピン東方海上で海面水温がかなり高く（ラニーニャ現象に近い海面水温分布）、積乱雲の活動が活発となり、その活発域に向かって吹く北東風が平年より強かったこと、また、大陸からの季節風が強かったため、東シナ海～日本の南で、南よりの暖かく湿った空気が流れ込みにくく、西日本付近を通る低気圧や気圧の谷（南岸低気圧等）が発生しにくかったことが挙げられます（上空の偏西風の流れにより、西日本付近では下降流となり低気圧が発生しにくかったことも要因）。



# 【補足】冬の天候



九州北部地方（山口県を含む）

**平均気温平年差 +1.0°C**  
(かなり高い)

**降水量平年比 75%**  
(少ない)

**日照時間平年比 126%**  
(かなり多い)

※1946年の統計開始以降  
多い方からの1位

# 【補足】大雨の発生頻度の変化



気象庁HP  
大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化



歩み続けて150年  
防ぐ災害・守る未来

大雨の年間発生頻度は増加しており、

□より強度の強い雨ほど頻度の増加率が大きい

□1980年頃と比較して、おおむね2倍程度(※)に頻度が増加している

(※ 1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨)

これらの変化には、地球温暖化が影響している可能性がある

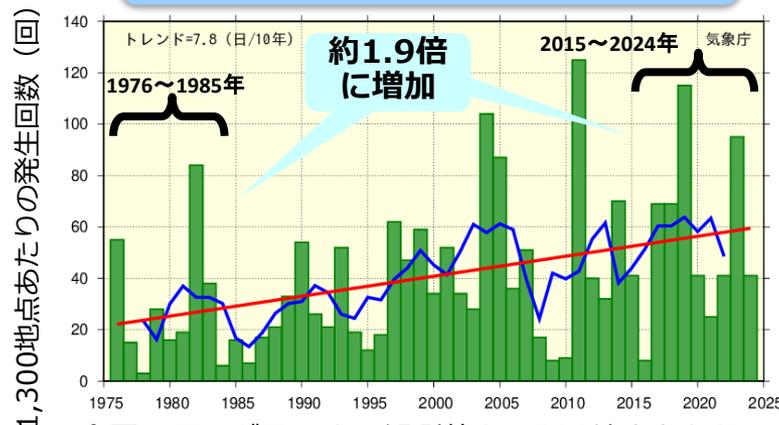
⇒大雨に対する備えの必要性を認識していただきたい

## 変化の倍率 (2015-2024年平均 / 1976-1985年平均)

|               |                     |
|---------------|---------------------|
| 1時間降水量50mm以上  | 約1.5倍 (約226回→約334回) |
| 1時間降水量80mm以上  | 約1.7倍 (約14回→約24回)   |
| 1時間降水量100mm以上 | 約1.8倍 (約2.2回→約4.0回) |
| 3時間降水量100mm以上 | 約1.6倍 (約155回→約248回) |
| 3時間降水量150mm以上 | 約1.8倍 (約19回→約33回)   |
| 3時間降水量200mm以上 | 約2.0倍 (約2.8回→約5.6回) |
| 日降水量200mm以上   | 約1.5倍 (約160日→約247日) |
| 日降水量300mm以上   | 約1.9倍 (約28日→約55日)   |
| 日降水量400mm以上   | 約2.1倍 (約6.4日→約14日)  |

- 変化の倍率は、最初の10年間（1976～1985年）と最近10年間（2015～2024年）の比。
- 回数及び日数はアメダス1,300地点あたりの換算値。

## 日降水量300mm以上の大雨の年間日数 (1976年～)



- 全国のアメダスによる観測値を1,300地点あたりに換算した値
- 棒グラフ（緑色）は各年の値、青線は5年移動平均値、赤い直線は長期変化傾向を示す。

あるいは、以下のような幅を持った表現もできる。ただし、数値は統計手法や期間等で変わりうることに留意。

1980年頃と比較して、約1.7倍～約2.1倍(※)に頻度が増加している

(※ 1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨。統計期間は1976～2024年)